

「ふれあい広場」の各コーナーで紹介する人を募集します。自薦他薦は問いません。日ごろ感じている意見や質問なども募集しています。
あて先=〒028-0592 遠野市東館町8番12号
市情報推進課広報広聴係 (☎@2111内線364)

ふれあい広場

ともに歩んで 半世紀

⑥ 東館町

佐々木 順一さん (77歳)
貞子さん (75歳)



「これから健康でいてください。今があるのもお父さんのおかげ」
結婚のとき、五十年の思い出は――
(順一) 日鉄鉱業が運営していた私立釜石鉱山学園に二人とも教師として勤めていました。
(貞子) 会社で奨励していたので、会費制で結婚式を挙げました。物が無い時代だったので、簡素化運動の先駆けとして当時では珍しい事でした。
(順一) 学園閉校後、公立学校に勤務しました。転任した先々の地域の皆さんに
お世話になったことが思い出です。
(貞子) 師弟同行が学園の校風でした。子どもたちと一緒に汗を流したことが思い出です。
・今の楽しみ、お互いに言いたいこと
(順一) ボランティア活動を通して、多くの人と触れ合うことが楽しみです。
(貞子) 教えることとの交流が楽しみです。
(順一) これからも健康でいてください。
(貞子) 苦勞を苦勞とも思わないで過ごして来れたのは、お父さんのおかげです。これからもよろしくお願いします。

◆お仕事は…馬や和牛の繁殖など、畜産業を営んでいます。知識や経験が経営に直接影響する難しさに、やりがいを感じています。
◆趣味は…最近購入した愛車でドライブすることです。
◆自己分析すると…優柔不断。
◆理想のタイプは…気が利く人。
◆これからの目標は…仕事で役立つために、大型とけん引の免許を取得することです。
◆将来の夢は…今は馬7頭だけの繁殖事業を、昔のように20頭規模に戻りたいです。

青春のトーク

⑥



夢は繁殖事業の復活
菊池 昌茂さん
宮守町・22歳・O型・農業

▽3月3日に取材しました。校長名と学年は取材日時点のものです。



学校 CLUB 紹介

⑥ 遠野中学校
女子バレーボール部
『凡事徹底』の実践で
勝利を目指す

遠野中学校(佐々木謙校長、生徒三百八十人)女子バレーボール部は、一年生四人、二年生八人の計十二人で活動しています。昨年九月に行われた地区新人大会では、惜しくも予選リーグ〇勝二敗でした。
キャプテンの佐々木優希さん(二年・センター)は「個性豊かなメンバーがそろっていて、先輩後輩関係なく声を掛け合ったり注意し合ったりするチームです。しかし、試合をしていてピンチになると声が出なくなるのが課題です。練習前には必ず「元気にやろう」とみんなで声を出しています。部活動だけでなく普段の生活から、当たり前のことを当たり前に実践し、中総体地区大会で優勝することが目標です」と話していました。
顧問の阿部徳之助(のりゆき)から「技術力はまだまだですが、あきらめることなく一生懸命練習に励んでいます。常に初心を忘れず、前を向いて頑張ってください。」



風の人

一いわておもしろ地産地消大賞受賞一
地域が元気になる
産直を目指す
小友町農産物直売組合組合長
小松 福志さん (57歳)

ひとこと インタビュー

▽3月10、13日に取材しました。学年は取材日時点のものです。



浅沼 海斗くん
(青笹小・1年)
サッカー選手になりたいです。シュートをいっぱい決めて、お父さんを超えるような選手になりたいです。



浅沼 礼香ちゃん
(青笹小・1年)
お花屋さんになって、お店にきれいなお花をたくさん並べたいです。好きな勉強は、算数で引き算が得意です。



菊池 侑香ちゃん
(上郷小・1年)
お手伝いなどをして人の役に立ったり、喜んでもらえる仕事をしたいです。好きな勉強は国語です。



佐々木 晟吾くん
(上郷小・1年)
プロ野球選手になってピッチャーをやりたいです。将棋やサッカーをして遊ぶのも大好きです。

大きくなったら何になりたい？

小友町農産物直売組合(愛称「産直ともちゃん」)は、創意工夫を凝らした地産地消活動に取り組み、大きな成果を挙げている個人・団体を表彰する「平成十七年度いわておもしろ地産地消大賞」を受賞しました。小松福志さんは、組合設立から組合長を務め、組合員のまとめ役として活動しています。「地域活性化と農家所得の向上を目的に平成十三年十月、組合を設立しました。現在、町内の農家五十一人と二つの食材加工グループで活動しています。平成十五年四月に産直ともちゃんが完成して組合員、特に女性の表情が明るくなりました。施設が交流の場となり、地域が活気づきました。最近では、お祭りの見物客の増加など、観光面にも効果が現れているようです。
産直ともちゃんは、学校給食への食材提供、県内産南部小麦と天然酵母を使い素材にこだわったパンづくり、春の山菜や秋のキノコなど旬の商品を提供するとともに

情報発信、地域活性化の拠点となつていきます。
今後は、昨年から始めた県内ショッピングセンターへの商品供給の回数を増やしたり、会員を募つて旬の商品を通信販売したりするなど、攻めの経営を展開していきます。
農業に対する意欲を高め、後継者が魅力を感じ、地域が元気になる産直を目指します。これまでも「こだわりを持って活動を続けていきます」と話していました。